

# 日本の結婚式

迷走坊さんが以前、「性同一性障害(性別違和)の方たちが結婚式を挙げるができる場所がなかなか無く、お寺で『佛前結婚式』をしてあげたらどうでしょうか?」と提案されました。京都市内ですでに実践されているお寺が存在しニュースで見たことがあります。場所柄、海外からのカップルがほとんどのようでした。私のお寺でしたら、マリア観音さまの御前で御誓いをする事ができればすてきだろうなと空想したりしています。いずれ式次第や演出など出来上がる日が来ると思います。

以前はホテルや結婚式場で「佛前結婚式」をする事は不可能でした。お線香などを焚くので特定の臭いが室内についてしまうからです。ホテルは特にそれを嫌います。そもそも「佛前結婚式」はお寺でいつごろからされていたのでしょうか。正直に言うと神前結婚式(神社)のコピーであるところが多いと思います。では神前結婚式を日本で初めて行ったのは誰でしょうか。これが案外新しく「明治天皇」です。明治維新以降、早急に西洋諸国に追いつかなければならないという気運が強いなか、京都から東京にお移りになられた天皇は自らの結婚の儀に際して「西洋式」を取り入れられました。コピーとは言いませんがキリスト教を意識されたものであったことは想像できます。なぜならば、日本の結婚式には「宗教」が関わることはほとんどなかったからです。時代劇でのそのシーンを思い出してください。武士も町人も式は自宅



らしき所でとりおこない、新郎新婦の目上の方が二人の間に存在します。その方が「確かに二人は夫婦になりました」と確認し宣言するだけの結婚式が静かに厳かにおこなわれます。そこに神佛の存在はありません。もう一つ特筆すべきは、「夜」おこなわれていることです。時代劇ではいつも蠟燭が灯されています。おひなさま飾りにも雪洞が存在します。「弔いは午前中、結婚は夜」と言うのがアジア圏に多くみられる習慣のようです。



明治天皇の結婚式で、おひなさま飾りの男女の位置が東西で分かれてしまいました。御自らの式に西洋式を取り入れられたので男女の立ち位置も写真左(東日本)のようになりました。写真右(西日本)が日本古来の位置です。関西の人々は東京へ行ってしまわれた天皇がもう少ししたら還ってくると信じ雛飾りをそのままにしたそうです。西洋式ですと内裏様の太刀がお雛様に触れてしまう可能性がありますから。ウチは岐阜で真ん中ですので、一年ごとに右左入れ替わってもらっております。俊徳丸